

## 施設長就任にあたって

虹の家 新施設長 横山耕太

今から3年半ほど前、ボランティアとして訪れた虹の家で初めてTさんにお会いしました。

当時、90歳をとうに超えていましたが、とても身軽でお元気で、独り言を言いながら周りを色々観察し、スタッフやほかの利用者さんに絶えず語りかけていました。介護の世界に縁のなかった私には、Tさんが何を感じ、何を伝えようとしているのか、理解ができずに戸惑ったものでした。

虹の家のアットホームな雰囲気が気に入り、毎日のようにボランティアに行くようになると、少しずつTさんの人となりもわかってきました。リンゴの唄が大好きなこと。いつも肌身離さず抱えているお人形をお孫さんの名前と呼ぶこと。Tさん専用のゴザでお昼寝することが一番落ち着くこと……。前にいた他の介護施設では「大暴れ」していたTさんが、虹の家では穏やかに過ごしているという話も聞きました。Tさんも私と同じように、虹の家の雰囲気を気にしているのかと親近感がわき、嬉しくなりました。

農家に生まれ、お孫さんを背負いながら畑を耕してきたという話を聞いてから、それまでちんぷんかんぷんだったTさんの言葉が、「畑行かねえとな」とか「草取りをするんだよ」などと聴き取ることができるようになりました。会話が続けられるようになると、Tさんも私に笑顔を見せてくれるようになり、ちょうどその頃、私は虹の家へ入職することを決めました。

残念なことに、支援職になる為の研修でしばらくボランティアをお休みしている間に、Tさんは天国へ旅立たれてしまいました。入職した後にもたくさんの方との素敵な出会いがあり、その一

つひとつが私にとって大切な思い出であり、仕事を続けてゆくうえでの原動力になっています。

このたび、高井睦美さんの後を受けて虹の家施設長に就任いたしました。一支援職であった頃と比べると施設運営上の様々な問題に対処することも多くなり、決断に迷うことが日々山積しています。そんなときには、初心に戻ることにしています。私の支援職としての原点はTさんをはじめとした利用者の皆さんの笑顔です。

利用者さんが笑顔を見せてくれるような関わりかたができていますか。ご家族が安心してくださるような気配りができていますか。職員が気持ちよく働けるような環境整備ができていますか。地域の方々に信頼していただけるような姿勢を保ち続けることができていますか。

くりかえし自問をしながら、運営に携わってゆきたいと考えております。そして、すぐそこに迫っている「超高齢社会」「大介護時代」を無事に乗り切るために、相当な覚悟と努力が必要であると改めて認識し、身の引き締まる思いです。

引き続き、地域の皆様のご指導やご協力を頂きながら、皆さんの願いであり虹の家の目標でもある「住み馴れた地域でいつまでも暮らし続ける」ことを追求してまいります。



Tさんとともに（2012年4月）

**編集後記** 2・3面で特集したとおり、私ども虹の会（虹の家）の活動を地域の方々にもっと知っていただこうと考え、今回のニュースより発行部数を倍増し、より多くの方々へお届けすることになりました。今まで虹の会をご存じなかった方、はじめまして。今後ともお見知りおきのほどよろしくお願いたします。見学やお問い合わせは随時受け付けております。お気軽にいらしてください。なお、本文中に記した利用者さんのエピソードについては、虹の家の活動や立場についてご理解いただく目的で、ご本人やご家族の承諾を受けられたものに限り、掲載させていただきました。

# 虹の会 ニュース

第51号

2016. 2. 1  
発行

編集発行 特定非営利活動法人 虹の会  
TEL 04 (7179) 3133  
FAX 04 (7179) 3130  
〒270-1114 我孫子市新木野 3-32-15  
郵便振替口座 00180-0-592018

## 寒中お見舞い申し上げます

虹の会 理事長 高井睦美

例年になく暖冬が続いていましたが、ここにきてにわか冬本番になって来ました。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

昨年4月の介護保険の改定や、8月からの一部2割負担の実施など、事業所にとっても利用者さんにとっても、介護保険制度をめぐる情勢は厳しいものがあります。次の介護報酬の改定は平成30年度に予定されていますが、大幅な改定のうわさもちらほら出て、明るい見通しとは言い難い現況があります。

私ども虹の会も創立から12年。虹の家が小規模多機能型に移行してから7年がたちました。小さな事業所として、今後の課題には大きなものがある中で、かねてより虹の家の副施設長をされていた横山耕太を1月1日付で施設長に任命しました。

地元で生まれ育った若い力に大いに期待したいと思っておりますので、会員の皆様、地域の皆様のより一層のご支援ご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

### ●月▲日

利用者のAさん（80代・女性）。いつものように体調チェックを行ったところ体温が38.7℃。自覚症状は全くありません（高齢の方にはよくあることです）が、いくら平熱が高めのAさんでもこの発熱は放っておけません。予定を変更して直ちに通院同行。診断の結果、何らかの感染症にかかっている可能性があるとのこと。いつもは昼食を食べたら一人でお帰りになるAさんなのですが、独居のAさんをこのままお返しするわけにはいかないと、昼食後も静養していただきました。夕方になっても熱は下がらず、遠方のご家族に連絡を取り、ご家族が駆け付けられる翌朝まで、急遽虹の家でお泊りをしていただきました。ご家族の看病の甲斐もあり、今はすっかり快復され、元通り元気になっていらっしゃいます。

### ■月◆日

日曜日、通ってくる予定の利用者さんはおらず、開店休業状態の虹の家では宿直職員が翌日の準備を

していました。そこへ一台のタクシーが到着し、中から利用者の

Bさん（80代・女性）が。「なかなかお迎えに来ないので、自分でタクシーを呼びました」とのこと。今日が日曜日だという事を忘れていたようです。「そんなに虹の家を気に入ってくださったんですね！」と感激しましたが、宿直職員だけでは昼食の用意もままなりません。ひとしきり、お茶飲み話を楽しまれたあと、引き継ぎに来た別の職員の車に乗ってお帰りになりました。



虹の家の詳しい情報はインターネットでもご覧いただけます。検索エンジン(Yahoo など)にて **宅老所 虹の家** **検索** でアクセスしてください。

「特定非営利活動法人（NPO法人）虹の会」が設立され 12 年。皆様のご協力のお陰でおおむね順調に活動を進めて来ることができました。でも、活動をしている時によく聞かれることがあります。「おたくは何をやるところなの?」「どこにあるの?」etc…

そこで、私たちの事をもっと地域の方々に知って頂きたいと考え、こんな企画を思い立ちました。

## 虹の会ってどんなところ!? 皆さんの素朴な疑問にお答えします!!



Q1 「何をやっている団体ですか?」

障害や高齢のために介護が必要になっても、出来る限り自宅で暮らしたい！（施設には入りたくない！）と望む人たちの気持ちに寄り添って、さまざまなお手伝いをするための団体です。介護保険制度の指定事業（宅老所 虹の家）と、ふれあい事業の運営を行っています。



Q2 「どこにありますか?」

新木野 3 丁目と 4 丁目の境目。道崎公園のすぐ近く。ピンク色の平屋の建物が目印です。（右図参照）



Q3 「利用しているのはどんな人?」

「宅老所 虹の家」は介護保険制度の指定事業所ですから利用登録の際には介護認定を受けている必要があります。利用者さんは、介護保険制度で「要支援」や「要介護」の認定を受けた高齢の方が中心です。

ご家族と同居されている方や独居の方、御夫婦そろってご利用されている方など様々です。

ほとんどの方が新木野地区在住です。



Q4 「どんなサービスがあるの?」

①虹の家に来て頂き、みんなでおしゃべり、運動、食事、入浴などを楽しんでいただく「通い」。

②必要に応じて週に何度か、夜間も虹の家でお過ごしいただく「宿泊」。

③ご自宅での生活でお困り事があった場合に職員がご自宅に伺う「訪問」。

この 3 つのサービスを、全て虹の家 1 事業所で行います。規模は小さいですが、さまざまなサービスを一体的に提供できるため、正式には「小規模多機能型居宅介護事業」と言います。正式名称はちょっととっつきにくいですね。わかりやすく言うと「ライフサポート（暮らしのお手伝い）センター」といったイメージでしょうか…。Q8 も参考にしてください。



Q5 「営業時間は何時から何時まで?」

原則として、年中無休・24 時間営業中です。

（通って来るご利用者さんがいない日は開店休業の場合もあります。）



Q6 「ふれあい事業って具体的にどんなものですか?」

認知症予防や老化予防のために脳トレ、リハビリ体操、歌声の集い、手芸教室などを行う「虹の家サロン」（新木野地自治会館で月一回開催）や「たまりんば虹」（下の記事参照）を定期的に開催しています。虹の会の趣旨にご賛同頂き、会員になって頂いた方はどなたでも自由に参加できます。

また、同様の趣旨から、「新木野高齢者見守りネットワーク」や「地域交流施設 ふらりえ新木野」の運営にも協力し、微力ながら新木野がより暮らしやすい街になるためのお手伝いをさせて頂いております。



Q7 「『宅老所』ってなんですか? 『託児所』の老人版ですか?」

正確にはちょっと違います。「小規模多機能型居宅介護事業」が国の制度として整備される前に、施設ではなく自宅で暮らし続けたいと願う人達のために始まった「宅老所運動」が名前の由来です。老人を託す場所ではなく、自宅と同じような居心地のいい空間を目指して、あえて「宅老所」の字を当てています。



Q8 「『宅老所 虹の家』の特色は?」

利用者さん個々の状況、立場、環境、思いに寄り添ったオーダーメイドのサービスを心掛けています。単なる介護だけでなく、利用者さんにとっての「普通の暮らし」を支えることと、顔なじみの職員が Q4 にある 3 つのサービスを柔軟かつ全般的に支援できることが、ほかの施設との違いです。

また、利用者さんだけでなく、近所の方が気軽に訪ねてきやすい場でありたいとも考えています。散歩がてらに立ち寄れる、地域の方にとっても居心地のいい空間づくりに気を配っています。



Q9 「虹の会は今後どうしてゆくつもり?」

虹の家の利用者さんだけでなく、地域の方々の心配事、お困り事に広く応えて行きたいと考えています。具体的には、ゴミ出し代行、買物や通院の同行、孤立化防止のイベントの開催や、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりなど、将来に向けていろいろな活動を企画検討してまいります。

### 笑い声が絶えません! 「たまりんば虹」にお立ち寄りください

毎週水曜日 10 時～15 時 虹の家地域交流室にて開催（8 番通り側の玄関からお入りください）

2008 年より地域の方のたまり場になっています。現在は、主に 70～90 代の女性を中心とします。まず、各自 100 円を貯金箱に入れ、お茶の時間になります。特に予約があるわけではありません。午前だけの人、午後だけの人、お弁当を持って一日中いる人もいます。季節に合わせた手仕事、気分によってそれぞれのやりたい事を行っています。今は、編み物のひざかけ ベスト 帽子 マフラー ルームシューズなどをゆっくりゆっくり編んでいます。材料は沢山ありますので手ぶらで来て下さい。料理の話、若かりし頃の話、たわいもない話をしながらお茶を楽しむ人もいます。

時々、職員さんが顔を出してくれるので、いろいろ質問したり相談したりも出来ます。

午後は百人一首 ぼうずめくり トランプなどを「わはは」と笑いながら過ごしています。

「一日がすぐ終わるね」「おしゃべりが出来て楽しい」「家にいるより元気になる」「ここがあってよかった」などと言って元気に帰ってくれるのが一番うれしいです。

たまりんば虹ボランティアリーダー 大川昭子

